とうきょう
すくわく
プログラム

こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

とうきょう　すくわくプログラム
活動報告書
久米川なかよし保育園
ふたばぐみ（1歳児）

とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

施設名	久米川なかよし保育園
施設所在地	東村山市栄町1-6-1ﾘｼｪｽ久米川1階
法人名	有限会社　鷺沼なかよし保育園

1 活動のテーマ

自然

〈テーマの設定理由〉

毎日良く散歩での自然探し。散歩で出会う自然物に興味を持ったことで「これってなに？」「なんで？」「どうして」と尋ねる子ども達とさらに興味を広げ、素材そのものに触れ、遊びを生みだす経験をするためにテーマにしました

2 活動スケジュール

戸外遊び（公園、森、市役所入口付近の林）・・各６０分程度を週に２～３日行う

顕微鏡、iPadを使用して観察（２月、３月）

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

〈素材・道具〉

虫眼鏡、バケツ、シャベル、フルイ、顕微鏡、iPad

〈環境設定〉

自然物のある公園を選び、たくさん出かける

一人一人にバケツなどを用意し、じっくりと興味関心に向き合い観察できるように設定した

グループで顕微鏡をのぞいてみる、自然物に限らず、見たいものをたくさん観察できるようにした

4 探究活動の実践

・虫眼鏡をもって探検に行こう

散歩の際に子どもが葉を広いその形や色に興味を持っていたので　葉を観察する活動を行いました。

大きな葉を見つけると顔を隠したり、小さな葉を見つけると、バケツに集め、「ごはんなの」と見た手遊びが広がっていきました

・さらに自然を探しに・・・

森へ出かけました。それぞれのバケツに何を集めるかな。ありさん、枝、砂・・子どもたちはそれぞれ自分の興味を広げながら言葉を発しながら楽しんでいました

どんぐり→「ハイチュウ」苔→「ハンバーグ」石→「やきいも」　たしかに！！子どもの発想、想像、に驚きました。

・観察しよう

　子どもたちの集めた自然物を持ち帰り、バケツにいれ寒い夜に外へ、、、「大きくなるのかな」「ごはんたべるのかな」　どんぐりは植木鉢へ、石はお靴の中へ大事にしまって観察していました

5 振り返り

日々の散歩で自然に触れてきてはいたが、子ども一人一人にバケツを渡せたことで、それぞれが、いろいろな方法で楽しめていた。

大人の見えるもの以上に子どもの想像する力は大きく、子どもの発する言葉にとてもわくわくした。

活動が終わったとき「またやろう」と言っている姿に、取り組めてよかったと感じた。一人一人に活動を保証できる、用意ができていたからとも思えた。

1　活動のテーマ

自然

2　問いを考える

毎日良く散歩での自然探し。散歩で出会う自然物に興味を持ったことで「これってなに？」「なんで？」「どうして」と尋ねる子ども達とさらに興味を広げ、素材そのものに触れ、遊びを生みだす経験をする

戸外遊び（公園、森、市役所入口付近の林）・・各６０分程度を週に２～３日行う
顕微鏡、iPadを使用して観察（２月、３月）

3　環境をデザインする
活動のために準備した素材や道具

- 虫眼鏡
- バケツ
- シャベル
- フルイ
- お道具箱

自然物のある公園を選び、たくさん出かける
一人一人にバケツなどを用意し、じっくりと興味関心に向き合い観察できるように設定した
グループで顕微鏡をのぞいてみる、自然物に限らず、見たいものをたくさん観察できるようにした

4　探究活動の実践

ふわふわで、
カサカサ背中がいってるみたい

はっぱ、あながあいてる？

「ばぁ」お肉みたいな葉でしょ
葉っぱご飯も、葉っぱふりかけも作りました

「ここも」気をめくるとダンゴムシのおうちありました

これも自然！泥の感触にも
思い切り触れ合いました

どんぐりにも赤ちゃんどんぐり、
太っちょどんぐり、全部違うね

歩く度「ザクザク」「カシャカシャ」
茶色の葉っぱは音が鳴る

虫眼鏡を使うと
いつもとは違う発見！

5 振り返り

普段の散歩でも自然物に触れあっているが、こうして、子どもたちにバケツやシャベルを用意できたことで、みんなが集中して、興味関心を広げ積極的に活動に取り組めていた

子どもによって興味はそれぞれで、同じ形のものを集めたい子、同じ種類を集めたい子、自分の好きなものをたくさん集めたい子、様々だった。「なに見つけたの？」と保育士から聞くことも初めはあったが、「みてこれアリさん」など子ども発信の言葉も多くなった。

集めたものを嬉しそうに見ててくれる子どもたちの表情は、自信と満足な表情だった。この機会が子どもたちにとって　興味関心を十分に刺激できる機会になった。

自然

太陽のまぶしい日、空を見て「今日は雲が一つもないね」と子どもからかけられた言葉。あーなんてきれいで素直な表現と、とっても優しい気持ちになった

自然物を集め、見立て手遊びが展開されていた。特に屋外では自然物に触れ合うことで子ども自身で考えたり工夫する姿があった。それを受け止めることができ遊びが充実していった。

子どもたちが　バケツ、シャベル、虫眼鏡など、『自分の』を持つだけで意欲的に参加するとができ、遊びの発展につなげることができた